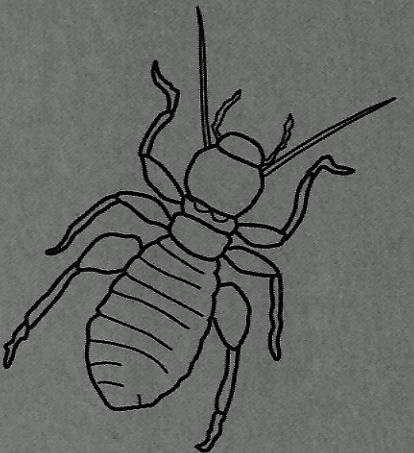


**生きもの
博物誌**
【チャタテムシ】



**博物館の
いたずら虫たち④**

河村 友佳子
(かわむら ゆかこ)

(財)元興寺文化財研究所研究補佐員

えに、資料がある場所を清潔に保つことや、資料を安全に維持できるように温度と湿度を管理するなどが博物館において重要な活動のひとつになつてくる。

環境整備のための日常的な取り組み

民博では、資料が置かれている場所を清潔に保つための取り組みの一環として、チャタテムシを確認したときは、その食性に鑑み、周辺にカビが生えてないか、または、ホコリやゴミが溜まり、カビが発生やすい環境になつていなか確認することを徹底している。そして、掃除をおこなうことで、薬剤などになるべく頼ることなくチャタテムシが生息しにくい環境を整えるように努めている。

その他にも、日常的な取り組みとして、資料を保管する場所である収蔵庫に職員が入るときは、専用のスリッパか作業靴に履き替え、外部からホコリやゴミをもち込まないようにしている(写真1)。これは、屋内に入れる際に靴を脱ぐという習慣をもつ日本では、特別なことに感じられないが、清潔な環境を保つには非常に効果的である。この他複数ある収蔵庫のうち、少なくとも一ヵ月に一収蔵庫を目標に順次掃除をおこない、全ての収蔵庫で一年に一度は掃除をするなどしてい(写真2)。これと合わせて資料にカビや虫の被害がないかを目視で点検している(写真3)。

温度と湿度を管理することについて、空調機によつて、資料の材質や季節に応じて設定した温度と湿度を保つとともに、自記温湿度計やデータロガー(写真4)で、資料がある場所の温度と湿度を記録し、設定した温度・湿度が守られているかを定期的に確認している。この結果は、資料管理の担当者や、資料保存担当教

員、空調管理をおこなう関係者が共有し、もしも問題が起つた場合は、これらの関係者が協力して原因の説明と問題の早期解決を図るのである。

民博では、このように、資料に接する博物館職員が日常業務でおこなえる範囲の活動を積み重ね、衛生面に配慮するとともに、温度・湿度環境を整える



(写真1)スリッパ、作業靴への履き替え



(写真2)1ヵ月毎におこなう収蔵庫清掃の様子



(写真3)資料の目視点検



(写真4)
収蔵庫に設置した自記温湿度計とデータロガー

チャタテムシ目 (学名: Psocoptera)

卵から孵化した幼虫が、さなぎの期間を経ずに成虫になる不完全変態の昆虫。この仲間は、体長1~10mmと小型で柔らかい体である。特に熱帯地方に多くの種類が分布しており、世界で約3000種類、日本では92種類が確認されている。文化財害虫となる種はコチャタテ科とコナチャタテ科に属しており、なかでも注意すべき種はコナチャタテ科に属する。コナチャタテ科のチャタテムシは体長が0.7~2mmで、翅を欠く。体の色は種類によって、褐色、暗褐色、赤褐色、汚灰色、淡黄色などさまざまである。



チャタテムシ類 無翅虫
(提供:イカリ消毒株式会社)

ことで、総括的に虫の発生を防ぎ、人間にも快適であり、資料にも安全な環境を実現できるように努力している。